“百年の礎を築く”

めざす姿　「誇りを持ち、夢の実現に挑戦するくまもと」

熊本には、千年以上もの間、地域の営みの中で受け継がれてきた阿蘇の草原や、400年の歳月を超えてそびえる清正公の熊本城の石垣、150年以上も現役で水田を潤し続ける布田保之助翁の通潤橋など、先人達の智恵と努力の結晶が今もなお県民生活の中に息づいています。

県では、熊本の100年後を見据え、熊本の宝である優れた歴史･文化、自然や景観、地下水などを守り、更に磨きをかけるとともに、地域の持続的発展を可能にする基盤・拠点づくりを進めます。また、未来の熊本にとどまらず、日本や世界を担う人づくりを行うなど、県民一人ひとりが「誇りを持ち、夢の実現に挑戦するくまもと」をめざします。

現状と課題

- 新幹線全線開業や政令指定都市移行により、人・物・情報等の交流が拡大しつつあります。この機を逸することなく、こうした効果を最大化し、県・政令指定都市の連携やハブ機能の強化により県内全域へ波及させるとともに、九州における熊本の拠点性を向上させることが求められています。

- 本県には、加藤・細川をはじめとする歴史・文化、阿蘇の草原、豊富な地下水などの自然や景観など、地域から愛され、守られてきた世界に誇る資源が溢れています。このような熊本の宝を、県民を挙げて磨き上げ、生かし、未来へと継承していく取組みが必要です。

- 地球温暖化の問題から、有明海・八代海における大規模な赤潮発生や光化学スモッグ等の広域的な問題、更には廃棄物の不法投棄などの県民の生活に密着した問題があります。これらの問題を解決するためには、日々の監視活動の着実な実施や長期的な視点での対応とともに、環境への配慮を当たり前のこととして行う県民一人ひとりの環境意識の醸成が必要です。また、公害の原点ともいわれる水俣病の歴史と教訓、水俣再生への取組みを世界に向けて発信し、次世代へと継承していくことが必要です。

- 本県は、多くの大学が立地し、生命科学や半導体分野の企業や技術の集積もあります。このような特色を生かし、産学官連携により優秀な人材や技術を集積し、研究開発を活性化させる取組みが必要です。また、グローバル化が進展する中、将来の活力を生み出す若者が海外で学ぶチャレンジへの支援などが求められています。さらに、熊本が留学生から選ばれるようなまちづくりを積極的に進める必要があります。

- 本県の小・中学生の学力はおおむね全国平均以上となっていますが、意識調査では学年が上がるほど教科が「好き・わかる」との回答割合が低下する傾向にあり、低学年からの基礎学力の定着などが課題です。また、家族形態の変化や地域のつながりの希薄化が進み、家庭や地域の教育力の低下が懸念されています。将来を担う子どもたちが、夢を持つことの大切さに気づき、自分の夢に向かって挑戦することへの支援や、貧困の連鎖を教育で断つ取組みを更に進めていくことが求められています。

「誇りを持ち、夢の実現に挑戦するくまもと」の実現に向けて推進する戦略

戦略11　**熊本都市圏の拠点性向上**
～将来の州都をめざします～

戦略12　**悠久の宝の継承**
～熊本の宝を磨き上げ、引き継いでいきます～

戦略13　**環境を豊かに**
～環境意識と行動を高めていきます～

戦略14　**熊本アカデミズム**
～「知」の集積を「地」の活力につなげます～

戦略15　**夢を叶える教育**
～次代を担う人材を育てます～

戦略11 熊本都市圏の拠点性向上
～将来の州都をめざします～

【概要】

熊本の100年の礎を築き上げるため、九州新幹線の全線開業や熊本市の政令指定都市移行の効果を、県内全域に波及させるだけでなく、九州全体の浮揚にもつなげていくことが必要です。そのため、産学官による「くまもと都市戦略会議」などを通して、県･市の政策連携を強化し、相乗効果を最大化します。また、高速交通体系の機能充実など、九州におけるハブ機能を強化し、熊本が九州発展のセッター役の役割を果たすことで、“将来の九州の州都”実現につなげます。

【体系】

戦略 11－①

＜主な施策＞

州都をめざした取組みの展開

- **◆州都を構想する**
  ～州都をにらんだ構想づくりの推進～
- **◆拠点性を高める**
  ～熊本型県・政令指定都市政策連携の推進～

戦略 11－②

ハブ機能の強化

- **◆大空港構想を進める**
  ～空港周辺地域のポテンシャルの最大化～
- **◆世界的な熊本駅をめざす**
  ～熊本駅周辺地域の魅力向上～
- **◆すべての道はくまもとに通じる**
  ～幹線道路ネットワーク等の整備～

〔指標〕	現状値（H23）		目標（H27）
・県・熊本市の政策連携協定数（熊本県・熊本市政策連携会議で承認された取組み数）	―	→	毎年度着実に増加を図る
・阿蘇くまもと空港の利用者数	279万人／年	→	300万人／年
・熊本駅の乗降客数	893万人／年（推計値）	→	920万人／年
・幹線道路の整備進捗率（供用率）	41.5％	→	50.0％

戦略11ー① 州都をめざした取組みの展開

◆州都を構想する

～州都をにらんだ構想づくりの推進～

- 九州知事会が一体となって道州制*1を先取りした取組みを進めることにより、国の道州制の議論を九州からリードするとともに、将来の州都をにらんだ構想づくりを進めます。

◆拠点性を高める

～熊本型県・政令指定都市政策連携の推進～

- 県・熊本市・熊本大学・経済団体による「くまもと都市戦略会議」などで議論し、実践につなげていく、全国でも例のない“熊本型県・政令指定都市政策連携”により、「コンベンション*2誘致」、「阿蘇くまもと空港国際線の振興」、「首都圏に向けた広報」などを進めます。
- 拠点性の高まった熊本の地の利を生かし、福岡等への通勤・通学者にとって魅力ある「くまもと定住促進戦略」を打ち出します。

＊1 現行の都道府県制を見直し、10前後のブロック（「道」、「州」など）に再編しようとするもの。国から道州へ、都道府県から市町村へ、権限や財源を大幅に移譲することにより、地方分権の推進と国･地方を通じた効率的な行政運営を実現し、地域の自主性を生かした自立的な発展をめざす。
＊2 国際会議や全国規模の大会、学会、見本市、イベントなど。

戦略11ー② ハブ機能の強化

◆大空港構想を進める
～空港周辺地域のポテンシャルの最大化～

- 熊本の空の玄関口である阿蘇くまもと空港とその周辺地域の持つ可能性を最大化するため、“品格あふれる美しさ”“先端技術産業の知の集積”“九州を支える空港機能”が調和した、「大空港構想」を推進します。
- 日本一広く美しい空港をめざし、阿蘇くまもと空港周辺や熊本市内へ通じる第２空港線沿線の景観を保全するとともに、景観を阻害する違法な工作物の撤去等に向けた取組みを進めます。

◆世界的な熊本駅をめざす
～熊本駅周辺地域の魅力向上～

- 熊本の陸の玄関口である熊本駅周辺地域の魅力向上を図るため、熊本市と連携して、駅舎・駅前広場や、白川・坪井川に囲まれた石塘（いしども）、桜にあふれた万日山（まんにちやま）の整備を進めます。また、新幹線口（西口）一帯をはじめ、熊本駅周辺の景観向上に取り組みます。

◆すべての道はくまもとに通じる
～幹線道路ネットワーク等の整備～

- 九州の中心に位置する熊本の地理的特性を踏まえた、“すべての道は熊本に通じる”という考えのもと、九州中央自動車道、南九州西回り自動車道、中九州横断道路、有明海沿岸道路構想など、幹線道路ネットワークの整備を進めます。併せて、国道57号の渋滞解消のための４車線化や、「90分構想*1」の実現に向けた熊本天草幹線道路の早期整備に取り組みます。
- 熊本都市圏の物流機能の強化を図るため、熊本港でのガントリークレーン*2の供用を開始するとともに、利用拡大に向けた強力なポートセールスを展開します。

---

*1 自動車交通により物流・人流の円滑化を図るため、熊本都市圏や熊本空港と県内主要都市とを90分で結ぶもの。
*2 設置されたレールの上を移動しながら、貨物の積み下ろしを行うクレーン。アームをクレーン本体から水平に張り出すことで、４箇所で吊り上げたコンテナを安定して取扱うことが可能。

戦略12　悠久の宝の継承
～熊本の宝を磨き上げ、引き継いでいきます～

【概要】

ラフカディオ・ハーンが提唱した「簡易・善良・素朴」の熊本スピリッツ（精神）のもと、特に、熊本の誇りであり宝である「熊本の地下水」「加藤・細川400年の歴史・文化」「阿蘇の草原」をはじめとする熊本の優れた文化や、先人達によって慈しみ、守られてきた豊かで心安らぐ熊本の原風景を守り、磨き上げ、次世代へと継承します。

【体系】

＜主な施策＞

戦略 12－①

くまもとの歴史・文化の磨き上げ、継承

- **◆歴史・文化を磨き上げる**
  ～地域にある歴史と文化の磨き上げと情報発信～
- **◆世界遺産登録をめざす**
  ～世界遺産登録に向けた取組みの推進～
- **◆県民と共有する**
  ～地域の宝の共有と将来へわたって守り・育む仕組みづくり～

戦略 12－②

くまもとの自然・景観の保全・継承

- **◆地下水を守り抜く**
  ～地下水保全対策と「水の国くまもと」の実感できる取組みの推進～
- **◆阿蘇の草原・景観を引き継ぐ**
  ～阿蘇の草原と景観の保全・継承～
- **◆素晴らしい景観を守る**
  ～素晴らしい景観の保全と活用～

〔指標〕	現状値（H23）		目標（H27）
・文化施設の利用者数	94.8万人／年	→	100万人／年
・世界文化遺産登録に関連する資産の国指定（選定）件数	5か所	→	14か所
・熊本地域の地下水涵養増加量（白川中流域水田湛水事業等による涵養量）	2,065万㎥	→	3,600万㎥

戦略12ー① くまもとの歴史･文化の磨き上げ、継承

◆歴史・文化を磨き上げる

～地域にある歴史と文化の磨き上げと情報発信～

- 明治以降の熊本文学を展示する熊本近代文学館において、加藤･細川400年の歴史と文化等についても紹介するなど､｢熊本歴史･文学館(仮称)｣として拡充します。また、引き続き、県立美術館において、細川家ゆかりの公益財団法人永青文庫の優れた美術工芸品等の展示を通して、熊本の歴史や文化を県内外に情報発信します。
- 熊本駅から、細川家ゆかりの北岡自然公園、古い町屋などが残る新町・古町、熊本城へと続く道が、米国･ボストンのフリーダムトレイル*1をモデルに歴史と観光が楽しめる街並みとなるよう、熊本市と連携して取り組みます。
- 鞠智城の国営公園化の実現に向けて引き続き取り組みます。
- 相良700年の歴史・文化、菊池一族、天草キリシタン文化など県内各地域の歴史・文化・史跡を活用した地域づくりや情報発信に取り組みます。

◆世界遺産登録をめざす

～世界遺産登録に向けた取組みの推進～

- 本県の文化遺産を世界に発信し、人類共通の宝として未来に引き継ぐため､｢天草のキリスト教関連資産｣､｢旧万田坑・三角西港｣､｢阿蘇｣の世界遺産登録に向けた取組みを推進します。

◆県民と共有する

～地域の宝の共有と将来へわたって守り・育む仕組みづくり～

- 松橋収蔵庫に所蔵されている本県の自然、文化、歴史、民俗に関する資料を身近な地域で見て触れ合うことの出来るフィールドミュージアム*2を、県内各地域で展開します。
- 「くまもと手仕事ごよみ（仮称)」を作成し、本県の「手しごと*3」を県民に広めることで、その伝統の技や文化、担い手を、将来にわたって守り・育む仕組みづくりに取り組みます。

---

*1 米国・ボストン中心部の歩道に描かれている、全長約４kmの赤い線。この線を徒歩でたどることで、ボストンの主要な観光地16箇所を巡ることができる。
*2 県全域を活動のフィールドとして捉え、松橋収蔵庫を中核施設として、展示、講座、自然観察会、調査研究等、県民参加の博物館活動を県内各地で展開する事業。
*3 地域の人々により伝承されてきた技術によって生み出されている伝統工芸、伝統食、伝統芸能など。

戦略12ー② くまもとの自然・景観の保全・継承

◆地下水を守り抜く

～地下水保全対策と「水の国くまもと」の実感できる取組みの推進～

- 県民生活と地域経済の共通の基盤である地下水を「公共水」として水質・水量ともに守り抜くとともに、熊本が誇る水辺の景観を整備するなど、新たな魅力づくりに取り組み、全国に発信するなど「水の国くまもと」が実感できる取組みを進めます。

◆阿蘇の草原・景観を引き継ぐ

～阿蘇の草原と景観の保全・継承～

- 阿蘇の草原を将来に継承するため、地元やボランティアによる野焼きなどを積極的に支援するとともに、あか牛の放牧を畜産振興、観光振興の視点から支援します。
- 日本を代表する観光地であり、世界遺産登録をめざす阿蘇において、違反広告物や放置された空き屋の解消を図るとともに、国立公園の特別地域内にある採石場の早期終掘に向けて、国、県、市、関係者が連携して取り組みます。

◆素晴らしい景観を守る

～素晴らしい景観の保全と活用～

- 「菅迫田（すげさこだ）の棚田（山都町）」や「番所（ばんしょ）の棚田（山鹿市）」、「一勝地（いっしょうち）の梨畑（球磨村）」などの美しい農村景観を、後世に残すべき宝として保全・活用するため、支援制度を創設し、民間と行政が一体となって取り組みます。
- 県内の新幹線や幹線道路沿線において菜の花やレンゲの風景を楽しめるよう、「イエロープロジェクト*1」を県民運動として展開します。

*1 耕作放棄地や水稲の裏作などを活用して、菜の花などの景観作物を作付けすることにより、美しい農村景観の形成を促すプロジェクトのこと。

戦略13 環境を豊かに
～環境意識と行動を高めていきます～

【概要】

熊本の豊かな自然環境を、守るだけでなく、公害の原点といわれる水俣病の経験を踏まえ環境への負荷を減らし、安全で住みよい環境として将来の世代に引き継いでいくことが私たちの責務です。そのため、低炭素、循環及び共生を基調とする安全、快適で持続可能な社会である「環境立県くまもと」の実現をめざし、環境と経済の好循環を推進するとともに、県民一人ひとりが環境活動を意識して実践していけるよう環境教育にも積極的に取り組みます。

【体系】

戦略 13－①

＜主な施策＞

生活と自然との共生

- **◆みどりの創造プロジェクトを進める**
  ～「みどりの創造プロジェクト」による新たな景観向上～
- **◆有明海・八代海を再生する**
  ～有明海・八代海の再生に向けた取組みの強化～
- **◆水銀条約*1 締結の外交会議を招く**
  ～水俣の世界への発信と将来世代への継承～

戦略 13－②

県民一人ひとりの環境意識の醸成と環境活動の実践

- **◆地球温暖化対策・エコ活動を進める**
  ～県民総ぐるみによる地球温暖化対策とエコ活動の更なる推進～
- **◆環境教育を進める**
  ～一人ひとりの行動につながる環境教育の強化～
- **◆廃棄物対策を進める**
  ～次代のモデルとなる廃棄物対策の強化～

〔指標〕	現状値（H23）		目標（H27）
・有明海・八代海の環境基準の達成度（COD*2 及び全窒素・全リン）	COD 72.2% 全窒素・全リン 83.3% （H22）	→	COD 100% 全窒素・全リン 100%
・一般廃棄物排出量	57万9千トン／年 （H21）	→	57万2千トン以下／年

＊1 国連環境計画（UNEP：ユネップ）が制定を目指している、国際的な水銀汚染防止のための条約。この条約を採択・署名するための外交会議は、平成25年に日本での開催が予定されている。
＊2 Chemical Oxygen Demand（化学的酸素要求量）の略称で、海水や湖沼の有機汚濁物質等による汚れの度合いを示す数値。

戦略13－① 生活と自然との共生

◆みどりの創造プロジェクトを進める

～「みどりの創造プロジェクト」による新たな景観向上～

- 公共事業の１％程度を、ビオトープ*1などの環境再生や、街並みの景観向上や緑の増加に活用する、「みどりの創造プロジェクト（仮称）」を進めます。

◆有明海・八代海を再生する

～有明海・八代海の再生に向けた取組みの強化～

- 有明海、八代海の再生のため、森林の整備・保全、生活排水対策、海域環境の保全など、国や市町村、NPOなどとも連携した川上から川下にかけた一貫した対策を強化します。

◆水銀条約締結の外交会議を招く

～水俣の世界への発信と将来世代への継承～

- 水俣病の歴史や教訓を踏まえ、再生に取り組む水俣を世界に向けて発信していくため、「水銀に関する条約の外交会議」の招致について、国・水俣市と連携して取り組みます。

＊1 生物生息・生育空間。

戦略13ー② 県民一人ひとりの環境意識の醸成と環境活動の実践

◆地球温暖化対策・エコ活動を進める

～県民総ぐるみによる地球温暖化対策とエコ活動の更なる推進～

- 日々の生活や企業活動を熊本の気候や風土に適し、省エネなど環境に配慮した熊本らしいライフスタイル・ビジネススタイルへと転換するために、地域や事業所全体での環境配慮行動となるよう具体的な行動の提示や普及啓発を行い、県民総ぐるみでのエコ活動の実践につなげます。

◆環境教育を進める

～一人ひとりの行動につながる環境教育の強化～

- 環境センターを拠点とした様々な学習の場の提供など、教育機関や企業、NPOなどとも連携して、県民一人ひとりの行動に結びつく環境教育を進めます。

◆廃棄物対策を進める

～次代のモデルとなる廃棄物対策の強化～

- 南関町で進めている公共関与による最終処分場を、全国のモデルとなる安全な施設として整備するとともに、周辺環境の整備など処分場を中心とした地域の振興に努め、環境教育の拠点となるよう取り組みます。
- 不法投棄ゼロをめざし、県民と協力して早期発見・早期対応に努め、原因者負担の原則による県内の不法投棄箇所の一掃に取り組みます。

戦略14　熊本アカデミズム
～「知」の集積を「地」の活力につなげます～

【概要】

熊本には多くの大学が立地し、生命科学や半導体などの分野での企業や技術の集積もあります。このような特色を生かし、大学や企業の研究開発を活発化させる取組みを進めます。

また、県内の大学などに海外から多くの留学生が集まる、世界に開かれた活気あるまちづくりを進めます。

さらに、夢を持ち海外へ挑戦する若者を支援し、グローバルな人材を育成するなど、「知」の集積を図り、それが「地」の活力となって世界とつながり発展する熊本づくりを進めます。

【体系】

＜主な施策＞

戦略 14－①

世界からの「知」の集積

- **◆「知」を集める**
  ～世界的な知の集積～
- **◆研究開発部門と大学院を誘致する**
  ～産学官連携による最先端技術の集積～

戦略 14－②

グローバルな人材の育成

- **◆留学生から「選ばれる」まちを創る**
  ～留学生とつながる仕組みづくり～
- **◆国際人を育てる**
  ～夢を持ち海外へ挑戦する若者への支援～

〔指標〕	現状値（H23）		目標（H27）
・研究開発部門の企業立地件数	9件／４年（H20～H23）	→	10件／４年（H24～H27）
・海外高校への留学者数	10人／年	→	100人／４年
・英語の学習が「好き」・「分かる」と回答した生徒（中１～中３）の割合	46.9％・46.4％	→	毎年度、前年度の割合を上回る
・留学生の数〔再掲〕	575人／年	→	1,000人以上／年

戦略14ー① 世界からの「知」の集積

◆「知」を集める
～世界的な知の集積～

- 高等教育コンソーシアム熊本*1と連携し、ポスドク*2などの優秀な人材を世界中から募集し、熊本での活躍の舞台を提供することにより、“将来のノーベル賞候補者が集まる街”をめざした取組みを進めます。
- かつて細川藩が宮本武蔵を熊本に招へいしたように、知の結集のシンボルとなる全国的な頭脳を熊本に招へいします。

◆研究開発部門と大学院を誘致する
～産学官連携による最先端技術の集積～

- 大学や、生命科学・半導体関連の立地企業と連携し、企業の研究開発部門やシンクタンク*3を誘致し、生命科学や半導体などの産業の裾野を拡大します。
- 環境や健康などの理論や応用研究を行う大学院を、環境都市をめざす水俣市へ誘致するため、熊本県立大学や国と連携して取組みを進めます。

＊1 熊本県内にある大学・高専等が協力して、熊本の教育環境の向上に寄与することを目的として設立した組織。
＊2 博士号（ドクター）取得後に任期制の職に就いている研究者。（postdoctoral fellow）
＊3 頭脳集団、総合研究所の意。政策や戦略の形成過程で必要とされる情報の収集や分析などを行う研究機関。

戦略14ー② グローバルな人材の育成

◆留学生から「選ばれる」まちを創る
～留学生とつながる仕組みづくり～

- 熊本が留学先として選択されるよう、熊本市、大学などと連携して、住まいのあっせんや生活上の様々な相談支援にとどまらず、県内企業への就職に向けた仲介や交流の場の提供など、様々な支援をワンストップで行う窓口を設置します。（再掲）
- 熊本市、大学などと連携して、留学生が熊本のファンになるよう「熊本の魅力を伝える講座」の開設を促進するとともに、帰国後も熊本とつながりが保てるよう「留学生ネットワーク」の仕組みづくりを行います。（再掲）

◆国際人を育てる
～夢を持ち海外へ挑戦する若者への支援～

- 熊本の将来の活力を生み出すため、世界への飛躍を志す県内企業や芸術家、学生などの海外進出を支援する官民出資によるファンドを創設します。
- 小・中・高校の各段階において、国語教育を大事にするとともに、英語に関する学習意欲やコミュニケーション能力を育成し、世界の一流大学への留学や国際企業で活躍できる英語力を持つ人材を育てます。

戦略15 夢を叶える教育
～次代を担う人材を育てます～

【概要】

子どもたちが、どのような環境にあっても、学ぶことを楽しみ、夢に挑戦し、夢を叶えることができるような教育を進めます。また、熊本の歴史・文化などを理解し、郷土への誇りを育むことにより、熊本の発展を支え、九州、日本、そして世界を支える人材を育てます。

【体系】

＜主な施策＞

戦略 15－①

夢を育む教育の推進

- **◆学力を育む**
  ～子どもたちの確かな力の育成～
- **◆貧困の連鎖を教育で断つ**
  ～ひとり親家庭等の子どもたちの教育環境づくり～

戦略 15－②

夢を拡げる教育の展開

- **◆夢を拡げる**
  ～将来の熊本の発展を支える人材育成～

〔指標〕	現状値（H23）		目標（H27）
・教科の学習が「好き」・「分かる」と回答した児童（小３）の割合	77.8％・83.4％	→	毎年度、前年度の割合を上回る
・海外高校への留学者数〔再掲〕	10人／年	→	100人／４年
・ものづくりチャレンジ事業*1・高校生の就業支援等プロジェクトの受講児童・生徒数	1,432人／年	→	1,700人／年

*1 ものづくりに関するキャリア教育推進の一環として実施している県の事業であり、熟練技能士を希望する小中学校に派遣しものづくりの指導を行う体験教室や県産業振興ビジョンに関連する職種での専門高校生による小中学生への技術指導などを行っている。

戦略15－①　夢を育む教育の推進

◆学力を育む
～子どもたちの確かな力の育成～

- 地域の人材等を活用して、小学校低学年から「読み、書き、計算」の基礎学力を徹底して身につけさせ、確かな学力の向上を図ります。また、我が国や郷土くまもとの歴史・文化などを理解し、愛する態度の醸成や、道徳教育の充実により豊かな人間性を育むとともに、健康・体力の向上を図り、社会人として基礎的な資質を育みます。
- 幼児期から、家庭において基本的生活習慣を身につけることができるよう、“教育の出発点は家庭から”を合い言葉に親の学びを支援します。
- くまモンを子どもたちの教育活動に活用します。
- 多様化・深刻化するいじめや不登校など様々な学校での課題に的確に対応するため、スクールソーシャルワーカー*1を増員するとともに、対象を高校生まで拡大します。

◆貧困の連鎖を教育で断つ
～ひとり親家庭等の子どもたちの教育環境づくり～

- 家庭の事情などで塾に通いたくても通えない子どもたちに学びの場を提供するため、学校の空き教室や地域の縁がわ、更には民間の学習塾などを活用した「地域の寺子屋（仮称）」を広めます。
- ひとり親家庭などへの職業訓練や子どもに対する教育支援を引き続き支援するとともに、日曜相談窓口の設置など新たな取組みを進めます。

戦略15－②　夢を拡げる教育の展開

◆夢を拡げる
～将来の熊本の発展を支える人材育成～

- 国際的な視野を広げ、日本やふるさと熊本の再認識にもつながる、中・高生の海外修学旅行と海外留学に対する助成制度を拡充します。
- 「熊本時習館構想*2」の取組みを引き続き展開する中で、将来のリーダーとなる人材を輩出するため、海外の難関大学への進学を支援する制度を創設します。
- 子どもたちが地場産業の魅力を身近に体験・理解できるよう、地元経済界などと連携した産業教育を展開します。
- 県内の児童・生徒への「知事出前ゼミ」を継続し、子どもたちの夢を育む教育を推進します。

---

*1 いじめや不登校をはじめ生徒指導上の諸問題の積極的予防及び解消のために、学校、家庭、関係機関との連携を機動的に図り、その連携の中で課題を共有化し、各関係者が協働しながら、子どもを取り巻く環境などを改善するとともに、本人の課題に対処する力を高めていくシステムづくりを行う者。
*2 県内の私学(主に高校）で学ぶすべての生徒が、学校の垣根を越え、同じ講義を受け、ともに集い、学ぶことに誇りを持ち、切磋琢磨しながら、それぞれの夢の実現を図っていくための学びの場を提供するもの。